とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0853
施設名	おおた　みんなの家
施設所在地	東京都大田区南馬込1-9-1先
法人名	社会福祉法人　つばさ福祉会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然との関わりの中で主体性と探究心を育む

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

異年齢保育を実施しており、子ども同士や保育者との対話を大切にしながら、子どもたちが自ら環境に関わりたいと思えるような環境構成のもとで日常の保育を行っている。

都内の幹線道路に挟まれた立地ではあるが、玄関先や屋上での栽培活動、近隣の公園の活用に加え、公共交通機関を利用しやすい環境を生かしながら、自然に触れる機会を継続的に設けている。

こうした環境の中で、乳幼児期における自然との関わりを通して、気付きや発見から学ぶ経験を積み重ねるとともに、自ら挑戦する力や、困難な場面においても立ち直ろうとする力（レジリエンス）を育むことをねらいとして、本テーマを設定した。

２．活動スケジュール

子どもたちの興味関心を基に、さらに関心が深まるような保育室の環境構成を行うとともに、子どもの気付きや発見の姿を可視化し、子ども・保育者・保護者間で共有した。

また、子どもとの対話を大切にし、一人ひとりの興味関心や「やってみたい」という思いに寄り添いながら、主体的に挑戦できるよう関わりを行った。

これらの取組を継続的に繰り返す中で、子どもが自ら活動に参加し、気付きや学びを深めていく過程を大切にした。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

お泊まりキャンプ施設利用料、芋掘り施設利用料、貸し切りバス、交通費、釣り堀、簡易トイレ、クッキング材料、プロジェクター、栽培苗、土、軍手など

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・子どもたちの自然体験への興味関心を背景に、川での生き物との出会いや飼育活動、魚釣りの探究を経て、お泊まりキャンプの実施へと発展した。

キャンプの実施にあたっては、活動内容や食事メニューについて子ども同士で話し合いを重ね、自らの意見を出し合いながら主体的に決定していった。特に食事については、日頃の栽培活動で育てた野菜を活用する提案が子どもたちから挙がり、日常の経験と活動が結びつく場となった。

また、「魚を捕まえて食べてみたい」という思いから、釣り体験への関心が高まり、お泊まりキャンプでは釣り堀体験を取り入れることとなった。これまでの試行錯誤の経験を活かしながら活動に取り組む姿が見られ、継続的な探究の成果が発揮される機会となった。

・子どもたちの自然への興味関心を背景に、芋掘り遠足に出かけ、実際に土に触れながらさつまいもを収穫する体験を行った。

収穫活動を通して、土の感触や芋の大きさ・形の違いなどに気付きながら、自ら発見を楽しむ姿が見られた。また、友だちと収穫の喜びを共有しながら活動に取り組む様子が見られた。

その後、収穫したさつまいもを活用したクッキング活動へと展開した。調理方法について子ども同士で話し合う機会を設け、自分たちの意見を伝えながら内容を決定した。

実際の調理の中では、食材の変化や香り、味に関心を持ち、収穫から食へとつながる体験を通して、食への興味関心を深める機会となった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・お泊まりキャンプの活動内容を決める過程において、自分の考えを伝えたり、友だちの意見に耳を傾けたりしながら、皆でよりよい方法を考えようとする姿が見られた。

・準備段階から主体的に関わり、自分たちで活動を進めようとする意識が高まっていた。

・これまでの釣り活動の経験を踏まえ、「どうすればうまくいくか」を自ら考え、さらに工夫しようとする姿が見られた。

・芋掘りの活動では、土に触れながらさつまいもを探し当てる中で、「ここにもあるよ」「大きいのが出てきた」といった声が聞かれ、発見を喜びながら主体的に取り組む姿が見られた。芋の大きさや形の違いに気付き、友だちと見せ合ったり比べたりする中で、自然物への関心を深めていた。

・活動中に見つけた虫や幼虫に興味を示し、「これは何だろう」「動いているよ」といった言葉を交わしながら観察する姿が見られた。見つけた生き物を持ち帰り、飼育する中で継続的に関心を持ち、変化や成長に気付きながら、生命への興味関心を深めていった。

活動を通して、子ども同士で収穫の喜びや発見を共有し合いながら、「どうやって掘ると出てくるかな」「もっと奥にありそう」など意見を伝え合う姿が見られ、協力して取り組む様子が見られた。保育者はそのやり取りに寄り添い、子どもたちの気付きや考えを引き出す関わりを行った。

その後のクッキング活動では、「どうやって食べる？」「サツマイモポテトがいい」など、調理方法について自分の考えを表現し、友だちの意見に耳を傾けながら内容を決めていく姿が見られた。調理の過程では、「いい匂いがしてきた」といった素材の変化に関する発言も聞かれ、収穫から食へとつながる経験への理解を深めていた。

・保育者は、子ども同士の対話を大切にしながら、それぞれの発見や気付きを共有できるよう関わった。活動全体を通して、子どもたちが自ら関わり、考え、次の活動へとつなげていこうとする姿が見られた。

活動の様子が分かる写真　2枚以上を貼付してください。

（HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

子どもたちの興味関心を起点に活動を展開し、話し合いや試行錯誤の過程を大切にしたことで、主体的に活動へ取り組む姿が多く見られた。 また、自然体験や栽培活動、芋掘りやクッキングといった日常の経験が、活動の内容決定や活動の広がりにつながり、子どもたちの学びが連続的に積み重なっていることを実感した。 友だちとの関わりの中で協働性や表現力も育まれ、保育の質の向上につながる実践となった。